

(仮称)草津市読書のまち推進計画(案)の概要

【資料1】

1. 計画の策定にあたって

○計画策定の趣旨

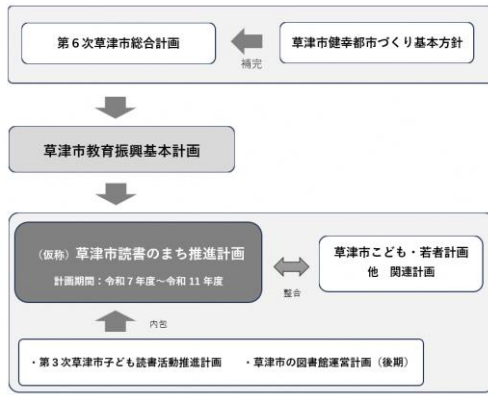
これまで「草津市子ども読書活動推進計画」と「草津市の図書館運営計画」の2つの計画によって市民の読書活動を推進してきましたが、人生100年時代を迎え、市民誰もが読書に親しみ、生涯にわたり学び心豊かに過ごすことができる「読書のまち」を目指し、全世代・全市域で総合的に読書活動を推進するため、2つの計画を内包した「(仮称)草津市読書のまち推進計画」を策定します。

○計画の位置づけ

本計画は、「草津市総合計画」を最上位計画、「草津市教育振興基本計画」を上位計画とし、「草津市子ども・若者計画」などの関連計画と整合性を保ちながら、施策を推進していきます。

○計画の期間

令和7年度から令和11年度(5か年)



2. 読書環境をめぐる現況

○社会情勢・読書環境の変化

- ・高齢化率の上昇
- ・ライフスタイルの多様化による「読書離れ」や「活字離れ」、本と出会う機会の減少
- ・インターネットや電子機器の普及による読書形態の変化
- ・子どもの不読率の上昇
- ・図書館の利用の伸び悩み

○国・県の動向

- ・令和2(2020)年 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画 策定
- ・令和5(2023)年 第五次子ども読書活動の推進に関する基本的な計画 策定
- ・令和6(2024)年 第5次滋賀県子ども読書活動推進計画 策定

○市の動向

- ・令和2(2020)年 第3次草津市子ども読書活動推進計画 策定
- ・令和2(2020)年 草津市の図書館運営計画(後期計画) 策定

3. 現計画(「第3次草津市子ども読書活動推進計画」と「草津市の図書館運営計画(後期運営計画)」)の評価と課題

	第3次草津市子ども読書活動推進計画	草津市の図書館運営計画(後期計画)
主な評価	<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせの実施や市内各小学校への移動図書館巡回による読書の習慣化の啓発 ○図書整備による読書環境の向上や本に関するイベントの実施による本への興味関心の喚起 ○バリアフリー図書の製作・提供による様々な子どもへの読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民の主体的な学習や読書活動を支援し、適切な資料・情報の提供や、読書欲求の喚起を効果的に推進 ○蔵書充実や多様なテーマの展示、司書スキル向上を通じて市民ニーズに応える図書館運営の実施
今後取り組むべき主な課題	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもが身近に本を手にとることのできる機会や読書を楽しむ機会の拡大 ●学校・家庭・地域・図書館等が連携した子どもの読書活動の支援 ●効果的な情報発信や読書ボランティア団体の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関等との連携による読書機会の拡大やデジタル社会に対応した読書環境の検討 ●多様な図書館ニーズ対応やアウトリーチによる読書環境の充実

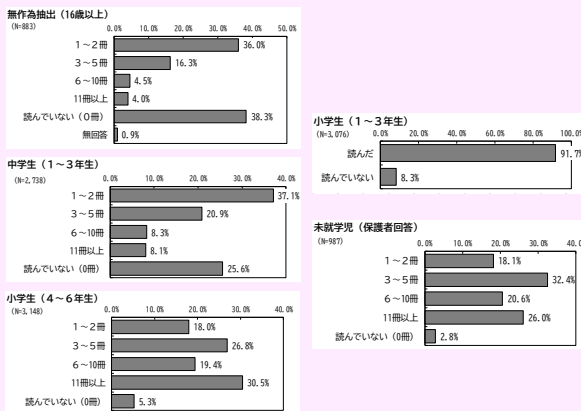
5. 読書のまちの実現に向けた本市の課題

- 《課題》
- ・家庭でいつも本がある環境を作り、子どもの読書習慣を育てる
 - ・中学生および高校生の読書習慣の形成
 - ・成人や高齢者に適した読書活動の推進
 - ・学校図書館や授業における小中学生の本の活用促進、本への興味関心の喚起、図書環境の整備・充実
 - ・市内全域で身近に本に親しめる環境づくり
 - ・図書館機能の利用促進およびデジタル社会に対応した読書環境の整備の検討
 - ・読書バリアフリーのさらなる推進
 - ・市内関係機関、各地域団体との連携
 - ・読書ボランティアの育成・活動支援
 - ・各世代に合った読書情報の発信

4. 市民アンケート結果(概要)

○1か月の読書量について

・学齢期が上がるにつれ不読率は上昇傾向にあり、小学校高学年から中学生の不読率を比較すると、約5倍の上昇。



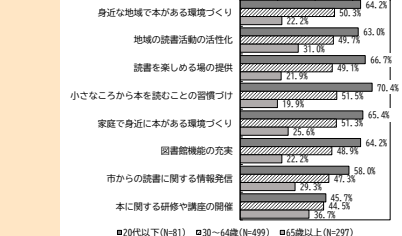
▶家庭、学校、地域、図書館等のあらゆる場での読書環境の充実や世代に応じた読書習慣の形成・定着が必要

○公共図書館の利用について

・公共図書館を「利用しない」、「ほとんど行かない」と回答した人の割合は小学生を除き、40%を超える割合であり、公共図書館を利用しない理由として、「自宅や職場から遠い」、「本を返しに行くのがめんどろ」といった回答が合計で約50%以上となっている。また、16歳以上においては「興味のある本は購入する」人の割合が3人に1人となっている。
▶図書館機能のさらなる周知と利用促進および市内のどこでも気軽に読書活動ができる環境が必要

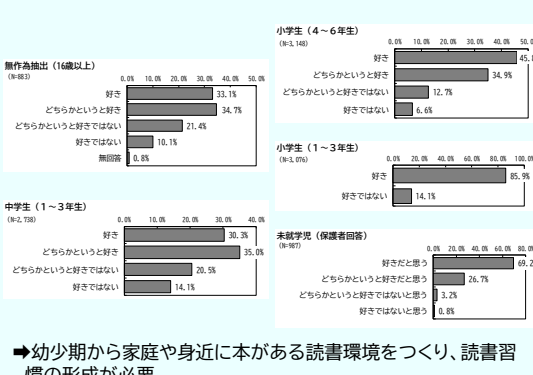
○読書活動推進のために大切なこと

(市民アンケート)
・20代以下、30代~64歳は「小さなころから本を読むことの習慣づけ」、「家庭で身近に本がある環境づくり」と回答している人が多い。
・65歳以上については「本に関する研修や講座の開催」が約3人に1人。
▶幼少期の読書を楽しむ習慣づけや家庭環境づくり、市民の興味やニーズに合った学びの場が必要



○読書が好きな市民の割合について

・読書が「好き」「どちらかという好き」と回答した人は、年齢が上がるにつれ、減少傾向。



▶幼少期から家庭や身近に本がある読書環境をつくり、読書習慣の形成が必要

《基本方針》

乳幼児から高齢者まで全ての世代に対応した読書活動の推進

市域全体での読書環境の整備

つながりによる読書支援の充実